

アユは今年どれくらい遡上した？ (アユ遡上尾数調査結果)

アユは本県の内水面漁業の重要魚種のひとつであり、初夏～盛夏を中心に友釣りなどで漁獲されています。晩秋になると、アユは産卵のために降河し、下流域で産卵して一生を終えます。産まれた仔アユは冬の間、海で育ち、春になると川の中流域を目指して遡上を開始します。

水産研究所では、令和3年から吉井川の鴨越堰(図1)の魚道を遡上するアユのモニタリング調査を続けています。アユの遡上尾数調査は、従来、人が現地において一定時間、目視でカウントする方法が用いられてきましたが、今回の調査ではタイムラプスカメラを用いて、カメラに記録された画像(図2)からアユをカウントする方法を用いました。

令和4年以降の調査結果を図3に示しました。例年、アユの遡上が活発になるのは4月の中旬頃で、5月の中旬頃までを中心に遡上が見られます。令和7年は5月10日に7,283尾/日と過去最高の遡上数を記録しており、4～5月における累計遡上記録尾数でも22,404尾と過去最高を記録しました(表1)。この一因としてアユがふ化した昨秋の河川水量が豊富で、ふ化したアユが順調に流下できた可能性が考えられます。

表1 遡上アユ記録尾数

年	累計遡上記録尾数 (尾)
R4	13,538
R5	18,586
R6	5,945
R7	22,404
※記録期間	4/1～5/31

一方、カメラの画像による調査には、画像からアユをカウントする作業に多くの時間と労力がかかるという課題があります。このため、岡山大学と協力し、AIを活用した作業の効率化に関する研究を進めています。

これから本格化するアユ漁ですが、各地から良い報告が聞かれることを期待しています。
(海面・内水面増殖研究室 竹本)



図1 鴨越堰の調査箇所（岡山市東区久保）

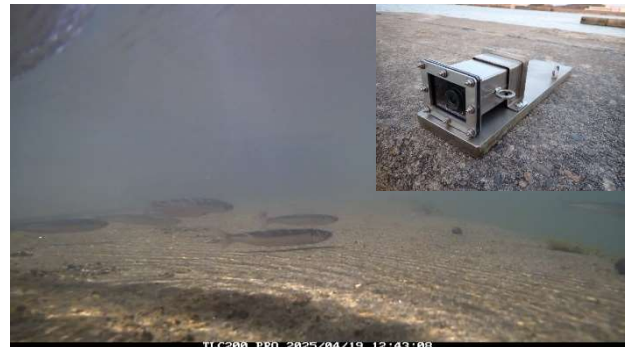


図2 タイムラプスカメラと撮影された画像

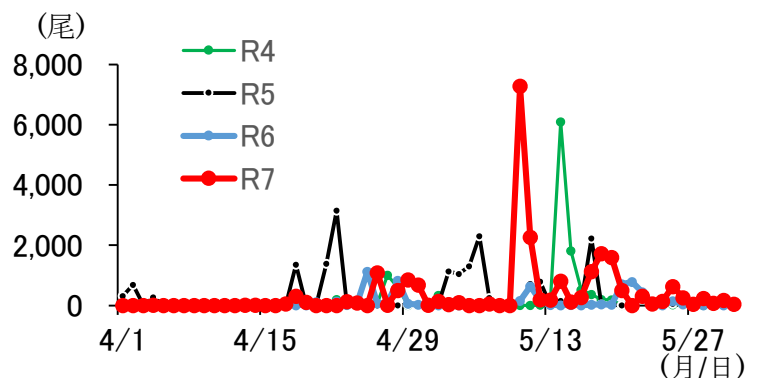


図3 鴨越堰右岸魚道における春季
のアユ遡上記録尾数の推移